

総説（雑誌）

●令和2年度 (2020.4~2021.3) ●

- 1) 低ホスファターゼ症 大藺恵一
小児科臨床, 73 (5) : 110-115, 2020.

- 2) 骨の成長・成熟と骨密度 大藺恵一
糖尿病・内分泌代謝科, 51 (5) : 7-12, 2020.

- 3) カルシウム・活性型ビタミンD3 窪田拓生, 大藺恵一
薬局, 71 (11) : 24-28, 2020.

- 4) ビタミンD抵抗性くる病・骨軟化症 大藺恵一
生体の科学, 71 (5) : 504-505, 2020.

- 5) ビタミンDに配慮した離乳食と日光浴 窪田拓生, 大藺恵一
チャイルドヘルス, 24 (2) : 35-39, 2021.

- 6) 小児白血病の分類と特徴 宮村能子
日本臨床, 78 (増) : 673-678, 2020.

- 7) 特集 クリニックで子どもの肝機能障害を見たとき 7薬物性肝障害 別所一彦
小児科, 61 : 388-397, 2020.

- 8) AYA世代がんサバイバーのかかえる内分泌代謝異常 橘 真紀子, 三善陽子
糖尿病・内分泌代謝科, 51 (3) : 224-230, 2020.

- 9) 特集 小児の炎症性腸疾患（総論）小児炎症性腸疾患の特殊性 木村武司, 田尻 仁
小児内科, 52 : 1163-1166, 2020.

- 10) 小児のC型肝炎の現状とDAA治療のインパクト 田尻 仁, 別所一彦, 鈴木光幸
肝胆膵, 81 (1) : 39-44, 2020.

- 11) 小児B型肝炎の病態と治療の現状 田尻 仁, 高野智子, 別所一彦
臨床とウイルス, 48 (2) : 114-122, 2020.

- 12) 小児クローン病治療方針 福岡智哉, 田尻 仁
小児科, 61 (5) : 727-733, 2020.

- 13) ウイルス肝炎 福岡智哉, 別所一彦
小児内科, 52 (増) : 616-622, 2020.

- 14) ゲノム編集とは その基本と医療応用の可能性 北畠康司
研究開発リーダー「ゲノム編集技術の未来予測、ビジネスチャンスと今後の課題」,
174 : 2-6, 2020.
- 15) iPS細胞とゲノム編集による疾患モデル作製と病態解明 北畠康司
遺伝子医学, 10 (4) : 46-51, 2020.
- 16) 入院中の赤ちゃんと24時間会えるシステム構築を目指して! 北畠康司
NICU mate, 58 : 8-10, 2020.
- 17) NICUへのオンライン面会システム導入とその未来 北畠康司
NMCS NEWS, 44 : 1, 2020.
- 18) 【チャートで極める!母体疾患別 新生児の病態生理とケア 家族説明シートつき】
血小板減少症 (ITP) の母親と児 山本哲史, 荒堀仁美
with NEO, 33 (3) : 325-391, 2020.
- 19) 【パーフェクト版 新生児のフィジカルアセスメント 正期産児からLate preterm児、
早産児まで】 (第1章) 新生児の所見とその評価 新生児に特徴的な所見 荒堀仁美
with NEO, 秋季 (増) : 36-51, 2020.
- 20) FGR/SGAをめぐるトピックス【新生児】 新生児管理の留意点 新生児室での管理 荒堀仁美
周産期医学, 50 (11) : 1869-1862, 2020.
- 21) ビタミン製剤 荒堀仁美
周産期医学, 50 (増) : 433-436, 2020.
- 22) コロナ禍の面会を実現するシステムを構築 北畠康司
損保ジャパン Risk Management Times, 62 , 2021.
- 23) 拘束型心筋症 成田 淳
小児内科, 52 (増) : 421-425, 2020.
- 24) 成長におけるビタミンDの重要性 窪田拓生
小児科臨床, 73 (7) : 971-975, 2020.
- 25) GM1 / 2ガングリオシドーシス, 異染性白質ジストロフィー, クラッベ病 酒井規夫
今日の小児治療指針第17版, 202, 2020.
- 26) Guides for tetrahydrobiopterin-responsive hyperphenylalaninemia. 酒井規夫
Pediatr Int, 63 (1) : 7, 2021.
- 27) 小児閉塞性睡眠時無呼吸と発達の問題 加藤久美, 村田絵美, 谷池雅子
睡眠医療, 14 (4) : 413-417, 2020.